多彩な催しで異文化交流

## 国際交流フェスタ2015

国際交流フェスタ2015が３月１日、総合福祉センターで行われました。多彩な催しで国際交流や多文化共生を身近に感じてもらおうと、市国際交流協会が行っているイベントです。インドネシアのコーナーでは、竹を使った伝統的な楽器「アンクルン」を紹介していました。この楽器は、音階を付けた竹筒を竹組みの枠で囲ったもので、左右に揺することで音が出ます。竹筒の大きさで音階が決まるため、ハンドベルのように複数の演奏者で音階を分担して演奏するそうです。

1,000人以上の市民が映画製作に参加

## 市民映画「オシニ」上映会

市民映画「オシニ」の上映会が３月８日、文化会館大ホールで行われました。25年７月から始まった映画製作事業は「地域をつなげる」「次世代の育成」「魅力の発信」を目標に、ワークショップ、オーディション、撮影、編集の過程を経て完成しました。上映後には、主要キャストによるトークショーや、映画のクライマックスシーンで歌い踊った♪オシニシオ♪も披露され、会場から笑いや拍手が絶えませんでした。映画製作実行委員会の長瀬委員長は「大勢の方の協力で映画を完成することができ、感謝しています。上映会も盛況でうれしい限り。今後も上映会を企画しますので、見逃した方は、ぜひお越しください」と語っていました。

色鮮やかな花々を観賞

## 第37回西尾市花の展覧会

第37回西尾市花の展覧会が２月27日、市役所市民ロビーで開催されました。この展覧会は、市民に花への認識を深めてもらおうと、西尾市花き協議会が毎年行っているものです。

心地よい花の香りが漂う会場には、バラやキク、カーネーション、切り花など121点が出展。訪れた人々は、その色鮮やかな花々を観賞していました。また、先着100人には花束が無料配布され、色とりどりの花束を求めて、長蛇の列ができていました。

文学への熱い思いを未来へ受け継ぐ

## 尾崎士郎賞表彰式

西尾出身の作家・尾崎士郎の没後50周年を記念して創設された作文・エッセイの賞「尾崎士郎賞」の第２回表彰式が２月21日、吉良図書館で行われました。全国から2,423点の応募があり、最優秀賞に高橋克昌さん（山口県山陽小野田市）の『いのちの通路』が、優秀賞に田中大翔さん（平坂中学校１年）の『寄り添う気持ち－車イス入店拒否の記事から』が選ばれました。表彰の後、語り部・田中ふみえさんにより、最優秀作品と優秀作品が朗読されると、受賞者・関係者は静かに聞き入っていました。

防災・減災を誓う

## 西尾市防災フォーラム

西尾市防災フォーラムが３月１日、文化会館で開催されました。南海トラフ巨大地震などの危機に対する備えを考える機会とするもので、約300人の市民が参加しました。第１部「中学生意見発表会」では、名古屋大学防災教育アドバイザー近藤ひろ子氏の進行により、学校から推薦された生徒11人が防災について熱心な提言や討論を行い、会場は大きな拍手に包まれていました。

第２部の基調講演では「東日本大震災と普段の心構え」をテーマに、大船渡津波伝承館長の齊藤賢治氏が、津波伝承館を設立した思いや、自らの被災経験で得た教訓などを語りました。

スゴ腕の動物たちが音楽を奏でる

## 音楽の絵本　クールブラス

音楽を用いて、子どもに読み聞かせる絵本のような役割ができればと誕生した「音楽の絵本　クールブラス」が３月７日、文化会館大ホールで行われました。弦（つる）うさぎのピアノソロ「トルコ行進曲」で幕を開けると、指揮者オカピ率いるズーラシアンブラスが「となりのトトロメドレー」などを披露しました。また、四つ子のキツネ・サキソフォックスによる“息の合わない”「マンボ№５」が観客の笑いを誘っていました。数々の演奏に、詰め掛けた親子連れの笑顔があふれ、アンコールの演奏が終わっても拍手は鳴りやみませんでした。

日ごろの練習成果を披露

## サタデープラン文化芸能発表会

サタデープラン文化芸能発表会が２月14日、文化会館で行われました。伝想庵では、５つの茶道教室で学ぶ子どもたちにより抹茶のお点前が披露され、来場者は心尽くしの一服のおもてなしに癒やされていました。小ホールでは、管弦楽や詩吟、津軽三味線、日本舞踊、ハーモニカ、ダンス、大正琴、合唱などが発表され、観客からは大きな拍手が送られていました。会議室では、生け花やせん茶教室、囲碁、将棋などの発表が行われました。どの会場も多くの人たちが訪れ、子どもたちの成果発表を存分に満喫しました。

迅速な消火活動と連携の強化を

## 林野火災想定合同訓練

市消防署と一色・吉良・幡豆消防団、県防災航空隊による林野火災想定合同訓練が２月15日、西幡豆町地内の八幡調整池周辺で行われました。「乾燥・強風波浪注意報が発令中、山林から煙が上がっているのを住民が発見、強風にあおられ南東方向へ延焼拡大している」という想定の下、遠距離送水システムと消防ポンプ車８台が連携し、迅速な消火活動を繰り広げ、万一に備えての対応を確認しました。本番さながらの緊張感の漂う中、どの参加者も真剣な表情で訓練に励み、機敏に行動していました。